

# 香川県の水生植物目録

久米 修

(香川県西部林業事務所)

## 1. はじめに

香川県の高等植物のフロラに関する研究は、多数の先人により試みられてきたが、その十分な解明はなされていなかったと言える。しかし1973年の香川植物の会の発足以来、植物誌の作成と言う課題に取り組み、ここ数年その成果は着々と積み重ねられて来た。一方、水生植物については、三木茂を始めとして、貴重な研究が行なわれて来ているが、溜池として日本最大の満濃池を筆頭に、全国的にも有数の溜池という水域環境を持ちながら、水生植物を対象としたフロラの作成はまだ試みられていないのが現状である。折りから、本年8月11日大滝末男水草研究会々長来県の節、県内の水生植物に関するフロラ作成を提言いただいた。何分にも、本県における水生植物の調査研究は始まったばかりの状態であり、完全なものにはほど遠い状態であるが、一向に衰えを見せぬ開発の波の中で次々と貴重な水域が失なわれてゆく現状を見るにつけ、既知の資料だけでも早急に整理する必要性を感じ、とりまとめた次第である。

今後、諸兄のご教示とご批判を仰ぎながらより完全なものにしたいと思う。

## 2. とりまとめの方法

とり上げた水生植物の範囲は、羊歯植物以上の高等植物を対象に、原則として大滝末男(1980)による抽水植物までとし、湿生植物は除外した。

参考とした資料は、香川植物の会により整理された標本に基づき発行されている香川県植物誌合弁花(1980)・離弁花(1981)・単子葉(未刊)・羊歯(未刊)の各編によった。

学名については本目録の予報的性格から省略し、和名のみをもって記載した。

産量については、客観的判断材料が無いので普通、少数、稀産の3階級区分を採用し、普、少、稀の表現を用いた。区分の判断は、香川県植物誌によったが、その後の調査で訂正を要するものについては訂正を行なった。

## 参 考 文 献

- 三木茂：小豆島の植物について、  
 大阪市立自然科学博物館、1955。  
 香川県：香川県植物誌(合弁花)、  
 香川県環境保健部自然保護課、1980。  
 “：香川県植物誌(離弁花)、  
 香川県環境保健部自然保護課、1981。

## 香川県水生植物目録 ( )内は産量

タヌキモ科	ノタヌキモ (少)	オオフサモ (少)	帰化
	タヌキモ (稀)	フサモ (少)	
ゴマノハグサ科	カワヂシャ (普)	アカバナ科	ミズユキノシタ (少)
	アゼナ (普)	ヒシ科	ヒシ (普)
	アメリカアゼナ (少) 帰化 1978.9.17, 琴南町にて坂口清一初見。		オニビシ (普)
	ウキアゼナ (稀) 帰化 1982.9.2, 高松市三名町にて赤木綏子初見。		メビシ (稀)
		ミソハギ科	ヒメビシ (稀)
リンドウ科	アサザ (稀)		ミズマツバ (稀)
	ガガブタ (普)		キカシグサ (普)
セリ科	セリ (普)		ヒメキカシグサ (稀)
アリノトウグサ科	ホザキノフサモ (普)	ミゾハコベ科	ミゾハコベ (少)
	トゲホザキノフサモ (稀)	オトギリソウ科	ミズオトギリ (稀)
		アワゴケ科	ミズハコベ (少)

アブラナ科	ミズタガラシ (少)		セイタカヨシ (稀)	
	ワサビ (稀)		アシカキ (普)	
	オランダガラシ (少)	帰化	マコモ (少)	
マツモ科	マツモ (普)		ウキシバ (普)	
	ヨツバリキンギョモ (稀)		キシウスズメノヒエ (少)	帰化
スイレン科	ジュンサイ (稀)		アイアシ (稀)	
	ハス (少)	逸出	トチカガミ科	
	ヒツジグサ (稀)		ウミヒルモ (稀)	
	コウホネ (稀)		クロモ (普)	
	オニバス (稀)		コカナダモ (少)	帰化
	フサジュンサイ (稀)	逸出	オオカナダモ (稀)	逸出
アカザ科	アッケシソウ (稀)		1982.3.16, 高松市元山町で納田美也初見。	
アヤメ科	キショウブ (少)	逸出	セキショウモ (少)	
ミズアオイ科	ミズアオイ (稀)		ヤナギスブタ (稀)	
	記録はされているが現在は絶滅したと思われる。		スブタ (稀)	
	コナギ (普)		記録はあるが現在絶滅したと思われる。	
	ホテアオイ (少)	逸出	トチカガミ (普)	
ツユクサ科	イボクサ (普)		ミズオオバコ (少)	
ホシクサ科	イトイヌノヒゲ (稀)		オオミズオオバコ (少)	
	ホシクサ (稀)	オモダカ科	ヘラオモダカ (少)	
	ニッポナイヌノヒゲ (少)		マルバオモダカ (稀)	
	ホシザキイヌノヒゲ (稀)		ウリカワ (普)	
	シロイヌノヒゲ (稀)		アギナシ (稀)	
	オオホシクサ (少)		オモダカ (普)	
ウキクサ科	ミジンコウキクサ (稀)	帰化	クワイ (少)	逸出
	ウキクサ (普)		ホロムイソウ科	
	アオウキクサ (普)		アマモ科	
サトイモ科	ショウブ (少)	逸出	アマモ (普)	
	セキショウ (普)		コアマモ (少)	
			イバラモ科	
カヤツリグサ科	ヒメホタルイ (普)		イバラモ (稀)	
	ホタルイ (普)		ホッサモ (稀)	
	カンガレイ (少)		オオトリゲモ (少)	
	サンカクイ (少)		トリゲモ (少)	
	フトイ (普)		ムサシモ (稀)	
	コウキヤガラ (少)		イトトリゲモ (稀)	
	ウキヤガラ (普)		サガミトリゲモ (稀)	
	マツバイ (普)		カワツルモ (稀)	
	オオハリイ (稀)		三木茂の記録のみ。	
	ハリイ (普)	ヒルムシロ科	オヒルムシロ (少)	
	クログワイ (少)		フトヒルムシロ (稀)	
	ミズガヤツリ (少)		ヒルムシロ (普)	
イネ科	ヨシ (普)		コバノヒルムシロ (稀)	
			ホソバミズヒキモ (少)	

ヒルムシロ科	ミズヒキモ (稀)	ガマ科	ガマ (少)
	ヒロハノエビモ (稀)		コガマ (少)
	確認記録はあるが現在は絶滅したと思われる。		ヒメガマ (普)
	ササバモ (稀)	アカウキクサ科	オオアカウキクサ (稀)
	エビモ (普)		アカウキクサ (少)
	ヤナギモ (少)	サンショウモ科	サンショウモ (少)
	イトモ (少)	デンジソウ科	デンジソウ (稀)
	センニンモ (稀)	ミズワラビ科	ミズワラビ (少)
ミクリ科	ミクリ (稀)	トクサ科	イヌドクサ (少)
	ヤマトミクリ (稀)	ミズニラ科	ミズニラ (稀)

## 館林市におけるオニバスの生育地

青木 雅夫

北限地に近い群馬県館林市の多々良沼周辺の水路(幅約1.7m)の一部にて、1982年夏、オニバスを観察した。6月頃、発見当時の浮葉は、ヒメシロアサザのそれとよく似ており、見まちがえるほどであったが、7月から8月にかけて、葉や葉柄は日に日に成長し続け、花柄も伸長して、たくさんの花をつけた。花は水上で一日咲くと水中へ徐々に沈んでしまうが、中には水中で咲いてしまうものもあった。さらに閉鎖花もあったようである。開花は、朝8時30分頃から午後1時頃までで、2時頃には閉じ始めている。種子は9月下旬から流れ、寒天状のものにつつまれた1cm位の硬い種子が採集された。市の環境保全課が保護にのり出し、観察池を作って一株移植に成功し、そこでたくさんの花を観察することができた。採集した種子は、観察池や水産試験場、さらに同市周辺の沼へ播種し、増殖をはかろうとしている。今後さらにくわしい研究をすすめたいと考えている。

(館林市立第一中学校)

## ミズアオイとその仲間

斉藤 吉永

秋の休耕田でひととき美しい碧紫色の花をつけたミズアオイ *Monochoria korsikowii* Regel et Maack の群落に出合うとしばしば足をとめてたずむ程の魅力がある。濃緑の葉と碧紫色の花のコントラストがまた素晴らしいからに他ならない。

ミズアオイ科の中に3属があるがその中の自然の傑作とも言えるだろうか。<sup>ザオウスマ</sup>かつて下総印旛沼畔や座生沼に数百株、いや数千株にも

及ぶ大群落があったのに最近は大群落が消えて、せいぜい数十株の小群落と変ってしまったのは何故だろうか。

まれに白花の form. *albiflora* Honda (シロバナミズアオイ) を見ることがあるがこれは清楚というかすがすがしい花である。

同属のコナギ *M. vaginalis* Presl, var. *plantaginea* Solms は萬葉集にもあるが水田などにごく普通に生える雑草で農家の厄介もののだが、ミズアオイのミニ版といった感じのなかなか捨て難い草である。これにもまたまれに白花のシロバナコナギ form. *albiflora* Sakata があるというが私は残念ながらまだ見ていない。

南アメリカや熱帯アフリカに6種を産するというこの属の中でよく知られているのはホテアアオイ *Eichhornia crassipes* (Mart.) Solms. で日本には明治年代に渡来したといわれるが、金魚鉢に入れられたりしておなじみの水草で暖い地方では害草扱いにする程繁殖力は強い。現在は別の面で見直されて汚水浄化に一役買って貰うべく研究にも力が入ってきたが、葉柄がふくらんで和名のとおりの愛嬌のある、そして花の美しいこの草の名誉が挽回されてほしいと思っている。

他のものが日本で栽培されているかどうかは知らない。

尚、最近日本でも野化し始めたと聞くアメリカミズアオイ属は熱帯アメリカに8種が知られているが、その中のどれが野化しているのであろう。広く栽培されているのは *Pontederia cordata* L. でアメリカミズアオイと呼ばれるのだが、*P. paniculata* が熱川バナナワニ園に導入されていると同園研究室の清水秀夫氏から御教示頂いている。或いは他の *P. lancifolia* とか *P. sagitata* や *P. maritima* なども栽培されているかも知れないので、これらの中から逃げだして野化したのであろうから野化の現場で実物を見たいものと願っている。